
魔法少女リリカルなのは 黒い転生者

靈華@アカガミ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 黒い転生者

【NZコード】

N49010

【作者名】

靈華@アカガミ

【あらすじ】

神のミスにより死にチート能力を貰い「魔法少女リリカルなのは」の世界に転生した主人公。彼はこの世界でどのように動き原作に介入していくのか？

なぜ知らないアニメの世界？（前書き）

懲りずに転生物を投稿です！

この作品の主人公はチートですが他の転生者とは少し違います

しかもオタクでもない

なぜ知らないアニメの世界？

はじめまして先ほど死んでしまった池田雅人いけだまさと人つていう者だ

え？なぜ死んだって？それはね…

大学の講義の帰りにヒーローズを一期から見なおそうと思つてTSU
TAYAで借りようと向かつたんだけど

途中で信号無視のフューラーにはねられたからなんだよね……あん
なに速度を上了車に跳ねられたら誰だつて即死だよ…！

そんできさ此処は何処だい？外を見ると見渡す限り高層ビルばっか
んだけど？

もしや俺が居る部屋も高層ビルの一室かい？それと目の前に同年代
かと思われるリーマンが土下座してんだけど……何なのかね？

「ここのたびは誠に申し訳ありませんでした」

はい？なぜ見知らぬ人に見事な職人技といつても過言ではない綺麗
な土下座をされて謝罪されないとけないんだい？

「あの～なぜ謝っているんでしょう？」

本当に謎だよ…

「……じ、実はこのたび貴方様が亡くなってしまった原因が僕にあるんです…本当にすみませんでした！」

は？何を言つてんだこのコーマンは？残業明けで頭でも逝つてるのか？

「どうぞ」と、説明してくれます？

「は、はい。実は僕は貴方達がいつよつた神でして」

再び…は？神？本当に頭は大丈夫か？

「それで下界に住む全生物の生死を管理しているのですが…残業で疲れているところで僕が間違えて貴方の寿命等を記したファイルを消去してしまって…」

…………まさかと思ひますが…

「あと76年は生きるはずの貴方が死んでしまいました…」

やつぱりかい…-[冗談だよね…?-冗談だと云つてくれないか…-…

つーか生物の命がPCのデータファイルなんかで管理するなよつ…-…

ん? 1つ1つは…

「本当に神?」

「先ほども言いましたが本当に僕は神です……まあ末端の平神です
けどね…」

えーー神つてデスクワークしながら生命を管理してんの!?-しかも
平つて本当にリーマンみたいだな…何か哀れみを感じる…

「あのですね貴方の今後の対応なんですが…」

はー…さうだよどつなんだよ俺…-…

「俺つてどうなんのや?...」

「それはですね、こいつたトラブルの対応マニコアルがありまして…貴方はマニコアル通りに輪廻を無視し此方で用意した世界に転生させてもらいます」

「マニコアル?転生?」

マニコアルがあるってことはもしかして俺みたいにミスで死んだ人間が多数いるのか?

一応死んだわけだから転生っていうのは良いとして輪廻を無視していいのか?

「輪廻を無視して転生していいんでしょうか?」

「ああ、大丈夫ですよ?貴方が転生するのは貴方が生きてきた世界ではなく此方が管理している別のせかいですか?」

「別の世界?平行世界みたいな物ですか?」

「ちょっと違いますね。別の世界っていうのは貴方の生きてきた世界に存在する漫画やドラマの世界です」

「漫画やドラマの世界ーー?」

「やうひです世界は「もしかしたら」等の考えのよひに無限に存在してこらんですよ」

そ、そ、うだつたのかーー?ことは作品の数だけ夢の世界が幾つもそんざいするつてことかーー?

「それでですねマーティアルにそつて幾つかの能力等を貴方に与えます」

「能力?」

もしゃ生まれつきの才能とかどうつか?

「簡単に説明すれば漫画等に登場するキャラの力や能力のことです

なななな、なんだつてえええええーーー?

「本ですかーー?」

「ええ本當ですよ。あとは容姿とかも決められまーす」

そ、それは凄いね！

「じゃあ、容姿は『トコララフ』の折原臨也でお願いします」

あの小説好きなんだよねーほとんどのキャラが懽んでいて面白いー。
アニメは数話しかみてないけど…

「はーいわかりました。お次は能力ですが三つまで好きなものを選べ
ます」

なんかメモし始めた?てか三つもーあ、でも

「これから俺が転生する世界ってどんな世界ですか?」

戦いとかが無い世界に行つて戦闘の能力貰つても意味ないし

「えーとですね少々お待ちを」

あの世つてエト社会なのか？持つっていたノートヨシで調べ始めたよ

「はい分かりました「魔法少女リリカルなのは」の世界ですね」

「…………」

「へ？どうかしましたか？」

「どうかしましたもこうしたも……名前ぐらうしか知らないアニメじ
やないか！！

「……名前以外まったく知らないんですけど」

「へ？……ええええええええええ！」

「そんなに驚く」とですか？！

「オタクなら誰でも知つてゐるアニメを……それでもオタクですか貴
方！――」

あれ? 何か知らないけど逆ギレされてる!

「オタクって…俺は漫画と文庫小説が好きなんだけだ！アニメなんか一般的に有名なやつぐらいしかほとんど見たこと無いよ…！」

ドラゴンボールとかワンピースとか！

「な、なんと… それでしたらしょうがないので原作知識を与えまし
う

「おお、おおと治めたたんかいん?」

なんか白い少女とかがビームとかを射ちはなつて戦う姿が頭の中に！

「じつやうかんと情報がインストールされたようですね。それで改めて三つの能力を

おいインストールつてなにさー！俺はP.S.かなにかかーー！

はあ…えーと能力ねえ。情報によると魔法で戦う詰みたいなんだよね…ふむ

「じゃあ身体能力は常人の1.5倍で他のステータスは魔力を含めてEXで」

「他はちチートなのに身体能力だけそんなんなんですか？」

チートつて…

「身体能力だけは常人より少しだけ動けばいいんですよ。そのほうが化け物染みなくていいし」

「そういうものですかね？それじゃあ残りの二つもお願いします」

「え？ セリフなので二つのお願いだつたんですけど？」

「ステータスの枠で括りましたので残り二つです」

「おおー意外なとこでサ・ビスが！」

「そんじゃ全ての能力を代償とか無しで使える能力をくださー」

「は? なんちゅうチートな能力を……まあ良こでしょ?」

「やつたー! てみる「ただし……」へ?」

「これば一回分になります」

「あー別に良いですよダメもとでしたし」

「やつですか（どうじよつ下手したら僕の給料が……） それでは最後に転生じの歳から始めるのか?」のままの年齢で転生するか決めてください」

「そんなことも決められるの?」

「このままの年齢で転生つて転生といえるのかが謎だが……」

「じゃあ今の年齢で」

「貴方……口リコンですか？」

「違うー！断じて違うー！」

俺の好みは年上の大人のお姉さんだ！！

「……よしこれで準備完了だ！」

無視！無視ですか！！

「それでは第一の人生を楽しんできてくださいね（カチャ）」

何だこれ！何だよこいつは！？

急に床に穴が開いてブーメランパンツを穿いた黒光りなマツチヨが俺の両足首を掴んで引き込みはじめ……その途中で俺の意識が

■ ■ ■ ■ ■

^ b r < ^ b r < ^ b r < ^ b r < ^ b r < ^ b r < ^ b r <

^ b r < ^ b r < ^ b r < ^ b r < ^ b r <

^ b r < ^ b r <

Side・平の神 -

「一応……マニュアル通りに転生させたけど……」

あの能力は流石にサービスしそうだなあ

まあ僕のミスが悪いんだけど……何ヶ月分かの給料があ（泣）

僕は末端の平神だから降格はこれ以上は無いけど下手したら謹慎どころかクビですよークビ！

ああ……負い目を感じずに簡単な能力だけに限定すればよかつた……

ああ……明後日あたりに僕の処分が通達されるんだろうけどクビはいやだなあ……

頑張つて入社したのにい……

入社数ヶ月でクビはイヤだよお

ただの一般魂に戻りたくないよ（泣）

はあ……こんなことなら運とかを管理する天使の会社に就職すればよかつた……

あ！！

彼に彼以外の転生者が居るって伝えるの忘れてた！！

……まあいいか！

これで彼に念話で伝えたら上に知られて更に処分が重くなるしね

さてと、今日も今日とて残業をがんばりますかー！

でも残業代は今回の事で無しだうなあ

はあ

>b
r<
>b
r<

なぜ知らないアニメの世界？（後書き）

他の転生物と彼らなりよつこじてみたんですがいかがでしょうか？

な、なぜ池袋に行けないんだーー（前書き）

早くも更新！

なんでしうね

何で私が一次小説を書くといつもひねくれたら作品になるんでしょ
うかね…

な、なぜ池袋に行けないんだ！！

「ハツ！」

「ここは何処？あのブーメランパンツを穿いた黒光りなマツチヨは！？」

あのマツチヨは普通に恐かつた……

で
本当に此処は何処だ？

本当にアニメの世界に来たのか？

周りを確認する……見慣れない場所だ……

服装を確認する……折原臨也と同じ服装だ……ポケットにはナイフは入っていない

これで容姿だけ転生?前の自分だつたらただのコスプレ野郎だ…

自分の顔を確認した……あ、公衆便所を発見！

発見した公衆便所に駆け込み鏡で自分の顔を確認

「ほ、本当に折原臨也になつていい」

確認した自分の顔は本当にデュラララのウザ也こと折原臨也になつていた

でも声が違うような……この声ってコードギアスっていうアニメの主人公の声だつたような？

「まあいいか……」

外に出ると幼女がベンチで泣いており少年が話しかけていた

確かあれって主人公の女の子だよね？

神リーマンによって無理矢理に頭に植え付けられた原作知識によるとあの少年は存在しないはず……

もしかして俺が来たせいで原作が変わった？

「ふむ……確認してみるか」

あの神リーマンが本当に俺が望んだ能力を『えてくれたなら使える
はず

「検索開始…」

そつ仮面ライダーWの「星の本棚」だ

アニメは見てなかつたけど特撮は小さいときから好きだつたから見
てたんだよね

さてキーワードだけ何を入力すればいい?

「ん~」高町なのは「少年」「公園」「出合」……どうだ?

……めし…絞れた!

よくあんなキーワードで一冊に絞れたな…

えーと何々…

名前は鳴海歩なるみあゆで転生者か

は?

転生者だと！！俺以外にも居たの！

あのリーマンめ言つとけよ！変に動搖してしまつたぢやないか…

はあ……氣をとりなおして続きを…

ふむふむ成る程

あの少年は前世は27歳の引きこもりのオタクで神のミスで心臓麻痺により人知れずに死んでしまつた

そしてミスをした神により大好きだった「魔法少女リリカルなのは」の世界に姿を漫画スパイラルの主人公にしてもらい幾つかの能力を貰い翠屋近くの一般家庭に転生

貰つた能力は「魔力SSSS+」「アルファ・ステイグマ」「超直感」

これから的主要な目的はメインとサブを含めた全女性キャラと出会いフラグを立てまくつてハーレムの設立

なんだろうね俺と同じように神のミスでしんだばずなのに彼には親近感も感じないし同情もできない

しかも貰つた能力が」の「魔法少女リリカルなのは」の世界じゃかなりの力を發揮しそうな物ばかりだ

魔力と力を上手く使えばこの世界じゃ 最強になれるかも知れない

もし「これで俺は最強だ！－」とか思ついたらウザいなあ

そもそもこの目的も酷いね俺には理解できない思考だよ

鳴海歩の容姿を手に入れイケメンになつてモテモテになつたなどと勘違いしているんじゃないだろうか？

イケメンになつても性格とかを何とかしないとモテるのもモテないつていうの

情報によるとほとんどのキャラが勘が鋭いようだからひょっとしたミスで全が台無しになるとと思つし

その瞬間だけを見るだけに彼を監視…………いや止めておこう

さて俺は俺で動きますか

目的地はそう池袋だ！－

せつかく折原臨也になれたんだから池袋に行かないでどうするの－

え？原作介入？変態転生者の討伐？

そんな」とめんどくさいからやらないよ

この世界には興味無いし好きに生かせてもいい

池袋に行こうと思い海鳴市を出ようとすると身体が拒絶反応を起こしたように海鳴市から出たくなくなる

海鳴市の境界線付近に近づくと頭の中、「出たくないなー」と思
考がよぎる

でも境界線付近から離れると其の思考が消えて元に戻る…

これはいつたいどういうことか？

まさかとは思うけど無理矢理にでも原作に介入するよつに海鳴市に閉じ込められた?
もしそうだとしたら嫌だねえ

余計な設定をしてくれたもんだね糞リーマンー

うん、実験の結果……完璧に閉じ込められたよつだ

徒歩がダメなら他の移動手段を試したけどどれも海鳴市から出る口ができなかつた

自転車、バイク、車、バス、電車、飛行、転移移動……全てが無駄に終わつた

はあ、まさかバスや電車に乗ることすらできないとは……参つたね
これは

これで原作が開始しても海鳴から出れなかつたらどうしよう……

とつあえず今日は適当にホテルにとまりますか
え?金はどうするつて?

アフターサービスが何か知らないけど財布の中に5万円も入つてたよ

だからバスや電車に乗りうつとしたんだよね

^b r ^b r

ああ、これがどうしたよ。」

な、なぜ池袋に行けないんだ！！（後書き）

主人公の転生後の名前ですが数話後に話の中で発表します

たいした名前じゃないんですけどwww

原作介入？なにそれおいしいの？（前書き）

なんかリリカル批判な感じが（汗）

原作介入? なにそれおいしいの?

あれから5年たちました

いやー時がたつのは早いねえ

この5年間は結局海鳴市から出れなかつたので拠点を海鳴市に作りました

鋼の鍊金術師の能力で金を作りまくり裏の換金所で現金にして高層ビルの一フロアを買い取つて事務所兼自宅にしたのさ

まさかこんな町に裏の換金所があるとは思いもしなかつたからけつこう助かつたよ

何で俺が裏の換金所とか危ない所を知つてるのは町の不良を掘まえて…………平和的交渉でイロイロ教えて貰つたんだよね～

最終的に暴力団の事務所の怖いお兄さん達に教えてもひつごとになつて多分ビビりはしたけど…………能力が無かつたら今頃…………有難う神リーマン

あと、そのお兄さん達に戸籍の偽造書等を作つてもうれる特殊なお店も教えてもらつて身分証とかも作りました

今じゃお兄さん達とはイイお友達

おかげで裏ではちょっと有名な情報屋になれましたよ

これで池袋に拠点を作れるならリアル臨也になれるだけど

情報の収得とかは能力を使ひしハッキングとかして簡単に情報が手に入るしウイルスとかも使って勝手に貯まる貯まる

それに一応作ったデバイスを使って現在地球に滞在している現役と元管理局員からデータを盗んで本局と地上本部にアクセスできるようになつた

原作知識と照らし合わせて黒い部分もバツチリ把握した

あとはこれ等を使ってどう遊ぶかなんだよね～

今のところ管理局に手つ取り早く接触するなら次元震を感じしてジ

ユエルシードを回収に来るアースラが丁度いいカモなんだけど

あの艦に接触するってことは原作に介入するってことになる……

原作介入なんてもう一人の転生者の変態くんに適当にやらせとかばいいし

アースラの艦長であるリングディ・ハラウォンに接触し交渉を持ちかけ管理局の不正等の証拠データを渡せれば彼女を丁度いい駒の一つにできるのに……

^b r < ^b r <

しかしアレだね、原作が実際に始まると本当にアニメの世界に来てしまったんだと実感えきるね

夢の中で念話で『助けて』って助けを求められたときは多少驚いたよ

変態くんはあの娘が原作通りに動くように何もしなかつたけど俺は動いた……だけど何もできなかつた

あの娘が魔法に関わらなければ上手い具合にアースラに接触できると思いユーノとかいうフューレットを殺してデバイスを奪おうとした……

世界意思とかいつのかな? フォレットの場所に向かおうとしたら激しい頭痛と吐き気に襲われて動けなかつた…… どんだけ俺に原作介入させたいのかねえこの世界は

でもまあ良くやるね彼女は、本当に小学3年の少女とは思えないなあ

「そう思わないかい朱?」

『.....』

「あははは、答えよ! にも君には無理か」

だって俺が自分でそういう風にAIを組んだんだから

彼女「朱」は俺が原作知識を基に能力を使って自作したアームズデバイス

……管理局のデータを盗めるよ! ひょりやく使い物になつたんだけど(苦笑)

普通はAIに感情に近いものを組み込むんだけどそつしなかつた

サポートと演算能力だけ有れば十分だしね

♪ b r ♪

そこで今現在ね外を見るところの事務所が入っているビルを含めた町の一定範囲が巨大な樹の根に覆われている

そうジュエルシードの暴走だ。結界で住人からは認識できないうにしているけど対応が遅い

死者は居ないとしてもかなりの人間が犠牲になつてゐるよ……まあ若干9歳とは思えない精神と行動力だけどしょせんは子供か

でも無駄に頑張りすぎじゃないかな?彼女といいもう一人の娘の方も

だつて俺がアニメじゃかたられなかつた

「ジュエルシード」一つを手中に納めているんだから

念には念つてとにかくな(笑)

手札は多ければそれだけで有利に交渉を運べることができるしね

व व

Side - 步 -

ふう今日は原作を知っているとはいえヒヤヒヤしたぜ

一部とはいえ町が木で覆われちまうんだもん

まあ、ちやんとのせとゴーノがジムヘルシーを封印して取まつたけど

しかし何で俺に助けを求めてくれなかつたのかね？

今まで計画通りに助けてきてそれなりの好意は得られているはずなのに……何でだ？

「もしかして好きな俺を巻き込みたくないとか？ それだったら領け

る

『ただ単にマスターが変態だと感じていてるからかもしれませんよ
?』

「そんなわけあるがつ！！」

たくつこのこのデバイスはいつも主の揚げ足を取るかなあ？

あの糞神の爺め！俺が本当に欲しかったチート能力をくれなかつた
うえに性格の悪いデバイスを寄越しやがつて！？

第一、俺が前世から考えて考え抜いたハーレム計画がバレる分けが
ないだろつつーの！－

つーか俺は変態じやない変態紳士だ！－

『結局のところ変態じやないですか』

勝手に人の心を読むなよ！

『読んでなんかいませんよ～頭は大丈夫ですか』

読んでるじゃねーかよつーだめだこのデバイス早くなんとかしない
と…

Side - 神 -

ふむ……やはり手違いで殺してしまったとはいえ彼を転生させたのは間違いじゃったかな？

一応は好意で二つまで増やしてやつた能力を使つて いるようじやが

あー何であんな変態のオタクを手違いで殺してしまったんじゃね...

それなりに歪んでいるが平行世界の別の天界から転生してきた彼を見習つてもらいたいわ

これが切っ掛けでワシの地位が落ちたらどうしよう。

原作介入？なにそれおいしいの？（後書き）

まだ主人公の転生後の名前が…

原作進むの早くね？（前書き）

うーん、リリカル関係ない感じが（汗）

原作進むの早くね？

ふむ、しまつた

早くも次元震がおきてしまつたよ

「うーむビリijoうか？」

俺が望むストーリーを描くにはリンクティ女史とコンタクトをとらな
いといけない

だけど主人公たちとは関わりたくない……

姿を能力で変えて原作介入つていつ手も考えたけどさあ

後々正体がバレたときの説明とかしょーじきめんぢくさい

盤上の駒を動かすならできるだけ表に出すに影で動かしたいし……
ん？

やれやれ、人が考え方をしているといつのに余計な客がきたようだ

> b r < > b r < > b r < > b r <
> b r <

Side - 歩 -

将来の嫁二人が戦つて次元震があきた

アースラ御一行が海鳴に来る

つまりはKY君のフルボッコフラグだ!!
グフフフ、徹底的に潰してエイミィとの結婚を無くしてやる

しかしさあしかしだよ?

なのはがまた俺を頼つてくれなかつた...

モギュモギュ.....なんでだろう?

モグモグ.....「ツクンツクン」.....フロイトはフロイトで
話しかけたら顔を背けて無視するし...

うーん..... そうかつー!?

なのははいつも同様に大好きな俺をまきこみたくない!

そこでフェイトは俺がカツ「よべ過ぎて皿を食わせるのが恥ずかしく赤くなつた顔を隠すために顔を背けているんだな！？
なうんだ、だつたら納得だね

これもオリ主の宿命つてやつかな？まいったね（いやあ（笑）

「あ、すみません。ショークリームもう一つくださいーーー

ふう、やつぱり翠屋のショークリームは最高ー

でも何で俺の注文だけは土郎さんが絶対に担当するんだろ？

『（ダメだこの変態バカ主！早く何とかしないと！）』

^ b r < b r < b r < b r < b r < b r <

「ぐ……本当に貴様は人間……な……のか?」

「んー?……さあどうかな」

招かれざるお客様たちは俺が以前に情報をリーエクされた組織の人間達だった

情報屋をやりはじめたころは能力の確認がてきて助かつていたけど慣れたとはいえ一気に30人近くの人数で襲撃されるとめんどくさい

まあ、暇つぶしの遊び道具には丁度いいか

「しかし、キミはしじぶといねえ」

一緒に来た他の人たちは空間系能力で簡単に死んじゃったし

「……ぐ……あが……はが……」

最後の生き残りのリーダー各らしい男

彼は壁にへばりつけられ……

「早く死んでくれないと本が読み終わっちゃうんだけど?」

シコツ

「がつ?...ふゞ...け」

シユツ

「つ?...」

ナイフの刃先での的になつている

うーん、今まで何本目はナイフだ?

本を読みながら空こてる右手でナイフを創造して投げて当てる
んだけど

本を読みながら的を見ないで当てるから数を数えてなかつたよア
ハハハ

確認する為に彼を見る

「あひやー死ひきので逝つひやつたか

身体全体にまんべんなくナイフが刺さつておひ、わざきのナイフが額に刺さつてトドメになつたらしこ

しかし、こんなに刺さつてんのによく死なかつたねえ

普通、だつたら激痛に耐えきれなくショック死するのに

彼が死ぬまでの時間を考え本を選んで暇つぶしに読んでたけど

適当に計算したのにギリギリ読み終わるまで耐えちやつたよ凄いね

さて、床に転がる死体も処理しないとね

「モシモシ？あ、そりそりまた頼めるかい？そり助かるよ。それじゃあこいつの口座に振り込んだくから」

死体の処理は専門家に任せるのが一番つてね

アースラの「」とは到着するまで保留つて「」とシャワー浴びて今日は寝よ

リーダー各以外の人の返り血で血だらけになつちやつたからね

原作進むの早くね？（後書き）

執筆を急いで、すげーやつつけ仕事なきがする（汗）

後半の主人公Sideが全然リリカルなのはと関係ないし（汗）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4901o/>

魔法少女リリカルなのは 黒い転生者

2011年2月12日02時17分発行